

【令和3年度農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策、地域活性化対策、農福連携対策、農泊推進対策)の評価概要】

都市農村共生・対流及び地域活性化対策、地域活性化対策、農福連携対策、農泊推進対策の各対策に関し、令和3年度において事業評価の対象となる全51団体について、有識者で構成する評価委員会による意見聴取を行い、評価を実施した。

計画に基づく取組が実施され、成果が上がっていると認められる総合評価Aが28団体(全体の55%)、計画に基づく取組がおおむね実施され、ある程度成果が上がっていると認められる総合評価Bが19団体(全体の37%)、重点指導の対象となる総合評価Cが4団体(全体の8%)となった。

また、令和2年度において重点指導対象となった2団体について、指導結果の報告があり、2団体ともおおむね改善された。

全体としては、本交付金によって各団体の地域の課題解決、交流推進等の取組が促進され、一定の成果が上がっていると認められる。

【令和4年度評価委員会の議事概要】

【評価委員】

委員長:中村 勝則(秋田県立大学生物資源科学部准教授)

委員:横田 純子(特定非営利活動法人素材広場理事長)

委員:渡辺 理絵(山形大学農学部准教授)

◇評価委員会

1 日時:令和4年10月18日(火)14時35分～16時40分

2 場所:仙台合同庁舎会議室(仙台合同庁舎A棟7F)

3 議事概要

(1)東北農政局農山漁村振興交付金評価委員会設置規程について

(2)評価委員会の趣旨・事業評価の考え方について

(3)評価委員会委員長の選任について

(4)評価結果について

(5)評価委員会の報告について

(6)その他

4 評価委員会委員の主な意見

(1)各対策とも新型コロナウイルス感染症の影響が大きい状況において、今後に向けて取り組んでいる内容を評価したい。

(2)農泊推進対策の実績の計上方法が、団体ごとに異なっており、それによる達成状況の違いが生じているのは不公平感がある。今後統一的に考えていく仕組みを検討していただきたい。

(3)事業実績が低調で総合的評価がC評価となっている団体のうち、新型コロナウイルスの影響等を勘案した新しい取組や事業効果を上げるため工夫、自立した推進に向けた取組が行われている団体については、評価したい。一方、新型コロナウイルスの影響があったとしても、単に事業を中止したり、取組が行われなかった場合は総合的評価をC評価とすることはやむを得ない。